

神奈川県立中央農業高等学校創立 120 周年記念式典

校長あいさつ



本日ここに、神奈川県立中央農業高等学校創立 120 周年記念式典を挙げるにあたり、ご多用の中、神奈川県教育委員会教育局指導部高校教育課高校教育企画担当課長 石原英之様、海老名市教育委員会教育長 伊藤文康様をはじめ、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、校友会、PTA、地域の皆様、そして本校の発展にご尽力いただきましたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

本校は明治 39 年、現在の厚木市下荻野にある法界寺を仮校舎として、愛甲郡立農業補習学校の名のもとに産声を上げました。

以来 120 年、本校は地域とともに歩みながら、その時代ごとの要請に応え、幾多の変遷を重ねてまいりました。

大正 6 年には現在の厚木市立睦合中学校の地へ移転し、愛甲郡立農業学校へ改称しました。その後、大正 12 年には組合立愛甲農業学校、さらに同年、地域の主要産業であった養蚕業の発展を背景に愛甲農蚕学校へと改称されました。

昭和 11 年には県立愛甲農業学校となり、神奈川県 of 農業教育を担う学校として発展を続けました。

昭和 22 年には相模原町上鶴間へ移転し、翌 23 年には県立愛甲農業高等学校となりました。しかし、その後、校地が米軍に接収されるという大きな試練に直面します。

昭和 25 年には、海老名町中新田の蚕業試験場と厚木高等学校の寄宿舎を借りて授業を続けました。十分な教育環境とは言えない中でも、先人たちは学びの灯を消すことなく守り続けました。

そして昭和 27 年、現在の海老名町中新田の地に新校舎が完成し、ようやく安住の地を得ることができました。さらに昭和 40 年には、現在の神奈川県立中央農業高等学校へと校名を改め、今日に至っています。

振り返れば、本校の 120 年の歴史は決して平坦なものではありませんでした。社会の変化、戦争、復興、高度経済成長、そして農業を取り巻く環境の変化など、多くの困難と向き合いながら、そのたびに先人たちは知恵と努力によって学校を守り、発展させてこられました。

その歩みを支えてくださった歴代の校長をはじめ諸先輩方、地域の皆様、保護者の皆様、そして数多くの卒業生の皆様に、改めて深く敬意と感謝を申し上げます。

現在、本校の正門横の石碑には「命はぐくむ」という言葉が刻まれています。作物や家畜を育てること。食を支えること。そして生徒一人ひとりの可能性を育てること。

120 年にわたり受け継がれてきた本校の教育の本質は、この「命はぐくむ」という言葉に凝縮されているのではないのでしょうか。

今日、農業は食料安全保障、環境保全、持続可能な社会の実現など、かつてないほど重要な役割を担っています。また、スマート農業やデジタル技術の活用など、新たな時代への対応も求められています。

そのような中、本校は県内唯一の農業単独校として、園芸科学科、畜産科学科、農業総合科の三学科を中心に、専門性の高い農業教育を実践し、地域や社会に貢献する人材の育成に努めています。

創立 120 周年は、決してゴールではありません。

先人たちから受け継いだ歴史と伝統を礎に、次の 130 周年、そして 150 周年へ向けて、新たな歴史を築いていく出発点であります。

私たち教職員一同は、これからも「命はぐくむ」の理念のもと、生徒一人ひとりの可能性を育み、地域とともに歩む学校づくりに全力で取り組んでまいります。

結びに、本校の発展を支えてくださったすべての皆様に改めて感謝申し上げますとともに、神奈川県立中央農業高等学校のさらなる発展と、ご列席の皆様のご健勝、ご多幸を祈念申し上げ、式辞といたします。

令和 8 年 6 月 18 日

神奈川県立中央農業高等学校長 岩崎 秀太